沖縄島から発見された日本未記録のセマルケシキスイ属の１種

久松定智[1)]・三宅　武[2)]

[1)] 松山市三番町 8 丁目 234　愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター

[2)] 由布市挾間町古野

Amphicrossus lobanovi Kirejtshuk (Coleoptera, Nitidulidae), Newly Recorded for Japanese Fauna from Okinawa Is.

Sadatomo Hisamatsu and Takeshi Miyake

日本産ケシキスイ科については，近年第一著者により全種のリストの提示および解説が行われた（久松，2015，2016a–c，2017a, b）．その中で，今回取り上げるセマルケシキスイ属は，東洋区から多くの種が知られ，近隣国では台湾から 6 種が記録されていることから，今後日本から未記録の種が発見されることが期待されていた（久松，2016b）．2017 年に那覇市在住の野林千枝氏が沖縄島で採集した甲虫の同定を第二著者へ依頼された中に，これまで国内では記録のないセマルケシキスイ属の 1 種を確認した．第一著者がこの標本を精査した結果，従来日本から記録のない種類であることが判明したので，ここに記録する．

エグレコゲチャセマルケシキスイ（新称）
Amphicrossus lobanovi Kirejtshuk, 2005

＜確認標本＞ 1♂，浦添市浦添大公園，10. VII. 2017，野林千枝採集；1♂，同地，28. VII. 2017，野林千枝採集，愛媛大学ミュージアム保管．

＜特徴＞前胸背板と上翅の縁毛は長く，跗節の爪とほぼ同長．♂の上翅会合部には基部 1/3 ほどに毛

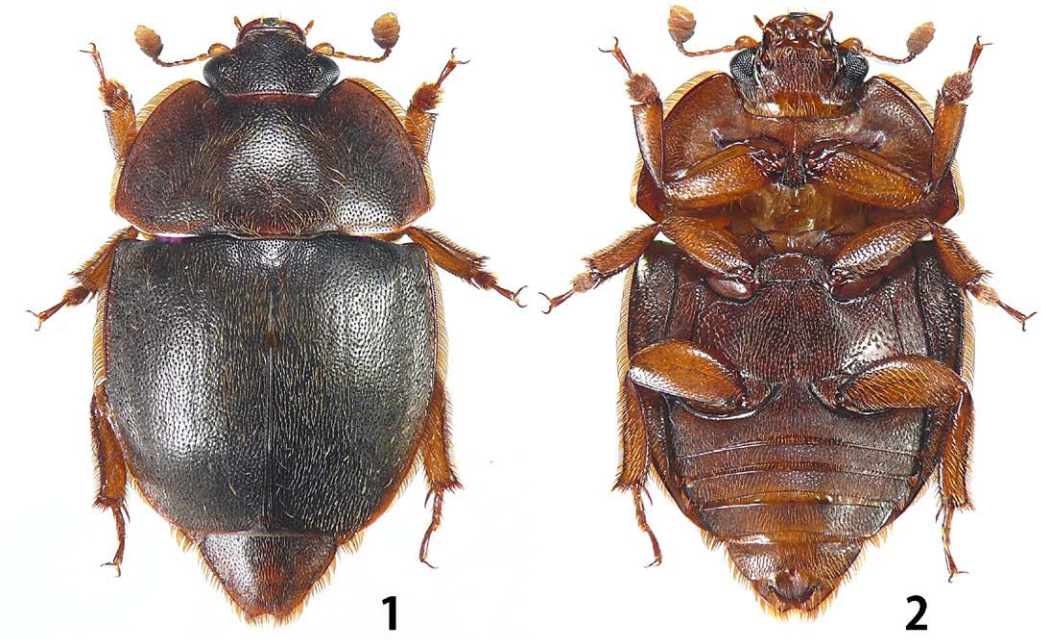

図1–2．エグレコゲチャセマルケシキスイ　*A. lobanovi* Kirejtshuk．1，背面；2，腹面．

束があり，それは触角の球桿部よりも短い．♂の第7背板の前縁は中央が深く湾入する（図1，2）．♂交尾器の tegmen は腹面から見て先端が拡がらない．

＜備考＞最初の個体が樹木に吊り下げたバナナトラップで得られたことから，追加個体の採集を期待して継続調査をお願いしたが，10月までの調査で得られたのは7月下旬の1個体にとどまった．本種はベトナムをタイプロカリティーとし，中国，台湾，パキスタン , インド，ベトナム，ネパール，カンボジア，ミャンマー，シンガポール，マレーシア，インドネシア，フィリピンから記録されている（Kirejtshuk, 2005）．本種の近似種との区別点は以下の通りである．コゲチャセマルケシキスイ *A. japonicus* Reitter, 1873 とは前胸背板と上翅の縁毛がより長いこと，♂の腹部第7背板前縁の中央が深く湾入すること，♂交尾器の tegmen は腹面から見て先端が拡がらないこと，そしてラオス，ベトナム，台湾から知られる *A. opinatus* Kirejtshuk, 2005 とは，♂上翅会合部の毛束は，触角の球桿部よりも短いこと，♂の腹部第7腹節中央の突起は先端に向けて狭まること，♂交尾器の tegmen は腹面から見て先端が拡がらないこと等で区別される．日本産セマルケシキスイ属は，ホソコゲチャセマルケシキスイ *A. hisamatsui* Jelínek, 1993，オオメコゲチャセマルケシキスイ *A. hirtus* Kirejtshuk, 2005，コゲチャセマルケシキスイ，そしてナガコゲチャケシキスイ *A. lewisi* Reitter, 1873 の4種が知られていたが（久松，2016b），本報告により5種となった．本属は，旧北区，東洋区，エチオピア区，新北区，そしてオーストラリア区に約50種の既知種が広域分布するが，多くの種が東洋区から知られる．近隣国の台湾から記録があり，日本から記録がない種は，*A. opinatus* と *A. discolor* Erichson, 1843 の2種であるが，これらの種も，沖縄島や八重山諸島から今後記録される可能性がある．

謝辞

末筆ながら，標本を恵与いただいた野林千枝氏に厚くお礼申し上げる．

引用文献

久松定智, 2015．日本のケシキスイ科（コウチュウ目）その1．昆虫と自然，50(13): 30–33.
久松定智, 2016a．日本のケシキスイ科（コウチュウ目）その2．昆虫と自然，51(5): 26–28.
久松定智, 2016b．日本のケシキスイ科（コウチュウ目）その3．昆虫と自然，51(12): 24–26.
久松定智, 2016c．日本のケシキスイ科（コウチュウ目）その4．昆虫と自然，52(1): 25–27.
久松定智, 2017a．日本のケシキスイ科（コウチュウ目）その5．昆虫と自然，52(4): 23–26.
久松定智, 2017b．日本のケシキスイ科（コウチュウ目）その6．昆虫と自然，52(9): 24–25.
Kirejtshuk. A.G., 2005. On the fauna of Nitidulidae (Insecta, Coleoptera) from Taiwan with some taxonomical notes. Annales Historico-Naturales Musei Nationalis Hungarici, (97): 51–113.

（2018年3月5日受領，2018年6月13日受理）

【短報】宮古島と来間島のコハンミョウの採集記録

コハンミョウ *Myriochila speculifera speculifera* (Chevrolat, 1845) は，国内において本州から琉球列島に分布し（森本，2007），宮古諸島においては伊良部島のみから記録されている（榎戸，1985；榎戸，2002；佐々木ら，2002）．筆者らは，これまで記録がないと思われる宮古諸島の宮古島と来間島（2島とも沖縄県宮古島市に属する）で，本種を採集しているので報告する．

図1．宮古島産コハンミョウ♀（2016年5月22日採集）．

宮古島：1♂1♀，18. V. 2013, 野原岳；1♀，25. IX. 2014，福山；3♂3♀，12. V. 2015，いこいの森；2♀，12. V. 2015，加治道；1♂，14. V. 2015，野原越；1♂1♀，22. V. 2016，学びの森；1♂，14. VII. 2016，大野山林．

来間島：1♂，29. VIII. 2014．

なお，これらの標本は琉球大学博物館（風樹館）に保管されている．

引用文献

榎戸良裕，1985．離島のハンミョウ類．月刊むし，(178): 19–20.
榎戸良裕, 2002. 沖縄県のハンミョウ類・基礎資料. 琉球の昆虫, (21): 30–33.
森本　桂（監修）, 2007．新訂原色昆虫大圖鑑第II巻（甲虫篇）．526 pp. 北隆館，東京．
佐々木健志・木村正明・河村　太，2002．コウチュウ目（鞘翅目）．pp. 157–284．In：東　清二（監修）増補改訂琉球列島産昆虫目録．沖縄生物学会，西原．

（小浜継雄　901-2216　宜野湾市佐真下 28）
（砂川博秋　906-0012　宮古島市平良字西里 529-1）